

特集

「長野県は宇宙県」の新展開

大西浩次（国立長野高専）

1. はじめに

2016年11月、長野県松本市にて有志が「長野県は宇宙県」を合言葉として集まり、『長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産を多くの人たちと共有し、その魅力を広く伝えていくことにより、長野県地域振興、人材育成、観光、天体観測環境維持に寄与することを目的とする。また、参加する団体・個人は、この目的のために、お互いの特徴を認めつつ、協力をし活動する。』とする松本宣言を制定しました。

この松本宣言から「長野県は宇宙県」の活動が始まり、2019年11月で、ちょうど3年間の活動を終えました。これから、4年目の活動がスタートするにあたり、この1年間の状況（図1）とこれからの展望について、いくつかのトピックスを紹介します。

2. 「長野県は宇宙県」天文文化研究会 WG

第3回「長野県は宇宙県」ミーティングをきっかけに、天文文化研究会ワーキンググループ(WG)が発足しました。この活動は、(1)長野県内に残る江戸時代の天文学の資料を調査することと、長野県内の近代天文学の進展を調査する目的で、(2)諏訪天文同好会を中心とした県内の同好会史を調査することにしました。

ここで、諏訪天文同好会は、日本で現存する市民天文同好会としては、最も古い天文同好会であり、2022年には天文同好会の設立100周年を迎えます。この諏訪天文同好会が1922年に設立されたきっかけは、山本一清による天文同好会(1920)の支部として、1921年に諏訪支部(支部長三沢勝衛)が出来たことにあります。

- 2018/11長野県知事とランチミーティング
@長野県庁（長野市）
https://www.pref.nagano.lg.jp/koho/kensei/koho/lunchmeeting/lunchmeeting/documents/lm_taiou181130.pdf
- 2019/01長野県星空継続観察冬期
- 2019/02/23-24 第3回「長野県は宇宙県」ミーティング
@木曾町文化交流センター(木曾町)
[Web集録] https://uchuuk.jp.org/3rd_report.html
- 2019/07/01-09/30 「長野県は宇宙県」スタンプラリー2019
<https://uchuuk.jp.org/2019stamp/>
- 2019/08/10 第3回長野県星空継続観察ミーティング
@長野市立博物館（長野市）
<https://uchuuk.jp.org/keizoku/190810meeting.html>
- 2019/08-09 長野県星空継続観察夏期
- 2019/10/05 第1回天文史研究WG研究会
@長野市立博物館（長野市）
- 2019/11/09 第3回長野県天文愛好者連絡会
@塩尻文化センター（塩尻市）
https://nagaten.net/191109_report.html
- 2019/11/09 第4回長野県星空継続観察ミーティング
@塩尻文化センター（塩尻市）
<https://uchuuk.jp.org/keizoku/191109meeting.html>
- 2019/11/30-12/01 2019年度「長野県星空ガイド講座」試行
@東京大学木曾観測所（木曾町）
<https://uchuuk.jp.org/guide/20191130.html>
- 2019/12/05 第2回天文史研究WG研究会
@長野市立博物館（長野市）
- 2020/01 長野県星空継続観察冬期
- 2020/02/07 第3回天文史研究WG研究会
@八ヶ岳総合博物館（茅野市）
- 2020/02/22第4回「長野県は宇宙県」ミーティング
@大町公民館

図1 「長野県は宇宙県」この1年（主な事業）

このとき、会費を払うことができない子供たちを集めて、市民の天文同好会として誕生しました。この諏訪天文同好会は、関西派（花山天文台、山本一清）と関東派（東京天文台、神田茂）の両方と交流を深め、日本における近代天文学の黎明期から発展期に至るまで多くの影響を及ぼしてきています。活動の内容

も初期の観測的研究から、1960年代後半の日本初の自然トラスト運動、天文普及講演会の主催に至るまで、天文学・天文教育の現場でした。いま、「長野県は宇宙県」として、諏訪天文同好会史を基軸に、東大木曾観測所や国立天文台野辺山など多くの天文研究施設が長野県内に設置された経緯や、市民への普及活動・トラスト運動が後世に与えた影響などの調査をスタートしたところです。

3. 「長野県星空ガイド」講座

県知事とのランチミーティングを始め、いろいろな機会、「宙ツーリズム」などの協力依頼を受けます。特に、星空ガイドの斡旋依頼が多いのですが、現状では出来ていません。そもそも、「宙ツーリズム」の星空ガイドができる「おもてなし」や「エンターテインメント性」を持った方はまだ少ないと思われます。そこで、「宙ツーリズム」の発展のためにも星空ガイドの育成が必要です。

その一つとして、長野県内で独自の星空ガイド資格を作ることを検討しています。特に、長野県内各地の美しい自然や地理、植生などにも関心を持ち、星空や自然を含む「博物的なガイド」を目指す「長野県星空ガイド」を考えています。支部会では、この養成講座の骨子と、木曾で行う試行について紹介しました。なお、実際の「長野県星空ガイド」養成講座の試行は、2019年11月30日から12月1日まで1泊2日で、東京大学木曾観測所で実施しました。この木曾観測には、現在、世界最新鋭のトモエゴゼンカメラが稼働しています。そこで、この講座では、トモエゴゼンを体験してもらうことを第1の目的として、装置に触れてもらう、トモエゴゼンの観測の様子を見てもらう、研究者から目指すサイエンスを聞いてもらうことにしました。さらに、翌日は木曾の自然・文化の講座を実施しました。

初日目は、①「長野県は宇宙県」星空ガイドの意味と試行について（長野高専 大西浩次）、②東京大学木曾観測所の概要（木曾観測所 青木勉）、③木曾観測所本館及び望遠鏡の見学（木曾観測所 青木勉）、④天文観測の歴史（長野高専 大西浩次）、⑤木曾観測所の観測と研究（木曾観測所 青木勉）、⑥トモエゴゼンとその目指す天文学（木曾観測所 高橋英則）⑦観望会など（飯田市美術博物館 吉住千亜紀、長野市立博物館 陶山徹）。2日目は、⑧地質からみた御嶽山の歴史と御岳マイスターの取り組み（三岳小学校教頭 川上明宏）、⑨木曾義仲、巴御前（高坪守男）、⑩星空ガイド講座のあり方、今後の課題など討論（国立天文台野辺山 衣笠健三）。以上のようなプログラムでした。

4. まとめ

「長野県は宇宙県」として、スタンプラリーから始まり、今では、長野県星空継続観察WG、天文文化研究会WGなどの活動が盛んに行われています。例えば、環境省による星空観察では、全国の観測点の約3分の1が長野県内になっています。さらに、長野県内のより詳細な光害調査なども始まっています。

さて、「長野県は宇宙県」では、「長野県星空ガイド」養成講座なども本格的に始まる予定です。これからも「長野県は宇宙県」の活動に注目していただくと共に、協力をお願いしたいと考えています。



大西 浩次